



Title	龍野文庫蔵懷徳堂関係文献簡介(二)
Author(s)	井上, 了
Citation	懷徳堂センター報. 2005, 2005, p. 183-203
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/24379">https://hdl.handle.net/11094/24379</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 龍野文庫藏懷徳堂関係文献簡介(二)

井上 了

筆者は先に、龍野市立歴史文化資料館(龍野文庫)蔵の三木家旧蔵資料若干について報告したが(「龍野文庫藏懷徳堂関係文献簡介(一)」)、『懷徳堂センター報』二〇〇四)、同館によるとこれらの出所である「三木家」については未詳ということであった。このため前稿においては、「式木架」の印記などを手がかりとしつつ、これらが三木通深(一八二四〜一八五七年。福岡町辻川の三木家第七代当主)にかかわる可能性を指摘するにとどめたが、後に三木家の旧蔵書目『観生堂蔵書目録』を閲覧する機会に恵まれ、同家に『彫蟲篇』『彫蟲後篇』などの写本が蔵されていたこと、また同家旧蔵の「中井蕉園先生文集 写本全一冊」が早くに失われていることなどを確認し得た。『中井蕉園先生文集』とはすなわち、前稿で報告した龍野文庫蔵『懷徳堂上梁文』そのものである。推測が裏付けられたことに意を強くしている次第である。なお三木家によると、第二次大戦後の混乱期に同家から多数の資料が流出したということである。龍野文庫の「三木家旧蔵」資料には昭和三四年の受入印を有するものがあり、時期的にも適合するものと言えよう。

さて『龍野文庫図書目録』(以下「龍野目録」と称す)には、「三木家旧蔵」資料として十二点が掲載されている。うち前項では三点のみ紹介したが、本稿では残る九点を簡単に紹介し、あわせて同文庫に架蔵されている目録二点の翻刻・紹介なども試みて、大方の参考に供したい。

### 『龍野誌』 『龍野目録』一〇〇頁(XI) 1

仮綴一冊。無界無野九〜一〇行不定字鈔本。三木家旧蔵一号。

内題なし(冒頭に置かれた目録には「龍野志目録」とある)。外題「龍野志」。印記「丸山」を有すが、鈔者や旧蔵者は未詳。

本資料は龍野の地方志であり、「第一 郡郷附村名」より「第十二 土俗」に至る十二篇。「第十三」「第十四」は目のみで本文を欠く。

本資料の末尾には「カ川隆」なる人物による「此本あやまり多し」「改正せしむべき也」などの打書があり、未定稿の段階のものかと思われる。

なお龍野文庫には他にも同名資料数部が架蔵されているとのことである。

### 『中井竹山 社倉私議』 『龍野目録』一〇〇頁(XII) 2

和一冊。四周双辺九行不定字鈔本。養中堂用箋。三木家旧蔵二号。

内題「社倉私議」。外題「社倉私議 全」。三木通深の印記と「天保十有二載歲次辛丑三月上瀚九日写三木尚子有父」の識語を有し、通深が鈔写したものである。

なお『社倉私議』については「懷徳堂データベース全コンテンツ」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』四二二、平成一四年)三八頁の解題を参照。

このテキストは、末尾に「附録」として「社倉之事」を付しており、この点においては木活本に似て、懷徳堂文庫蔵の上野精一旧蔵鈔本（受入番号「一九一六三」）に似ない。ただし本資料が木活本の誤植を承けていないことは注意される。

なお本資料については、特別展図録『龍野と懷徳堂』（龍野市立歴史文化資料館、平成十二年）三六頁および八五頁の解説に詳しい。

『中井履軒 履軒後聞』（『龍野目録』一〇〇頁（XII）3）

和一冊。三木家旧蔵三号。

内題「履軒数聞」。外題「履軒数聞 単」。三木通深の印記を有するが、鈔者は未詳。

なお『履軒数聞』については「懷徳堂データベース全コンテンツ」一一二頁の解題を参照。

竹島箕山鈔本（懷徳堂文庫蔵書票「懷103」）は、履軒自筆本（懷徳堂文庫受入番号「二〇五〇三二」）末尾の「慶長年間黄金一枚ノ値」以下を欠くが、本資料はこの部分を正しく録しており、また自筆本では挟込紙に記されている「中国之民和一安樂く害於其政者」も本文として鈔している。本資料は、竹島本よりも自筆本や中条若処鈔本（懷徳堂文庫蔵受入番号「二〇三〇〇八八四九〇」）本や筆者家蔵本などに近い系統のテキストと言えよう。

なお龍野文庫には他に一本の『履軒数聞』が架蔵されている（『龍野目録』四六頁）が、こちらは竹島本に近い鈔本であるように見える。

『中井履軒 典謨接』（『龍野目録』一〇〇頁（XII）4）

和一冊。四周単辺九行二〇字鈔本。三木家旧蔵四号。

内題「典謨接」。外題「典謨接 全」。三木通深の印記を有するが、鈔者

は未詳。

『典謨接』については「懷徳堂文庫の研究二〇〇五」（大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書、研究代表者湯浅邦弘）四二頁の解題を参照。

懷徳堂文庫には、履軒自筆本（『七経雕題畧』本、受入番号「七八九〇八」、複製本「二〇三〇〇八九六三七九」）のほか少なくとも三部の『典謨接』鈔本が架蔵されている。うち北山文庫本（受入番号「八〇〇二九四五」）がもつとも自筆本に近く、他の二本（蔵書票「懷76」・「懷103」）は同一の底本から別に鈔写されたものと思われる。

本資料は、懷徳堂文庫蔵の四本（六行一六字）とは版式を異にしており、眉標の省略も認められる。また自筆本が塗抹している文字もそのまま録しており、懷徳堂文庫蔵のテキスト群に対して特異な鈔本といえよう。なお新田文庫にも『典謨接』が二部（E174、E176）架蔵されている。

『中井竹山 閑距餘筆』（『龍野目録』一〇〇頁（XII）5）

和一冊。左右双辺一〇行二〇字鈔本。三木家旧蔵五号。

内題「閑距餘筆」。外題「閑距餘筆」。三木通深の印記を有するが、鈔者は未詳。

『閑距餘筆』とは、徂徠の学説に対する竹山の反論をまとめたもの。竹山の自序（享和元年）に「目を徂徠集に寓したるに、則ち詖言妄説、蓋し篇簡に溢る。迺ち技癢に堪えず、意に触れ弁駁を加うる者、日を積み一冊子を得」とある。

なお懷徳堂文庫には、竹山自筆本（受入番号「二〇四六六三」）のほか、文化七年伊藤松園鈔本（受入番号「二〇五〇九四」）・享和三年鈔本（蔵書票「懷68」）の『閑距餘筆』も架蔵されている。うち享和三年鈔本は、自筆本に見える訓点は省略しているものの、自筆本にもっとも忠実な鈔本であ

るように見える。

本資料には竹山自筆本などに見えない脱字があり、うち一部は伊藤松園鈔本に一致する。本資料は他にも多くの点で伊藤鈔本に一致しており、訓点の訂正や省略も一部に見られるもの、伊藤鈔本にきわめて近い鈔写と思われる。なお、新田文庫にも『閑距餘筆』が架蔵されている(E100)。

『整庵先生喪祭私説』 (『龍野目録』一〇〇頁(XII) 6)

和一冊。無界無野一〇行二〇字鈔本。三木家旧蔵六号。

内題「整庵先生喪祭私説」。外題「喪祭私説」。三木通深の印記を有すが、鈔者は未詳。

『喪祭私説』については『懷徳堂文庫の研究二〇〇五』五頁の解題を参照。

懷徳堂文庫には、『喪祭私説』鈔本として少なくとも三本が架蔵されている。うち「懷29」鈔本および「懷30」鈔本(文化五年淵崎正理鈔本)は版式が類似しており、このうち「懷29」が原本に近い形と思われる。また懷徳堂文庫蔵「遺1-27」鈔本(受入番号「二〇四六〇二」)と本資料とは、版式が類似し、ともに履軒「服忌図」を附録するなど、近い関係にある鈔本と思われる。ただし本資料は、「遺1-27」鈔本に見える訓点をすべて省略しており、また誤写(かなり多い)に不審紙を貼付している箇所が散見する。なお、新田文庫にも『喪祭私説』が架蔵されている(E190)。

『中井竹山 東稽』 (『龍野目録』一〇〇頁(XII) 7)

和一冊。無界無野一〇行二〇字鈔本。三木家旧蔵七号。

内題「東稽」。外題「東稽 完」。三木通深の印記と「天保十二年辛丑十一月廿九日卒業／播州簗山処士越智深公逢父写／於浪華懷徳書院」の識語

を有し、三木通深が懷徳堂において鈔写した本であることがわかる。

『東稽』は、束式(手紙の書式など)について竹山が詳細に記したものの。本資料には、竹山自筆本(懷徳堂文庫受入番号「二〇四六五九」)、「二〇四六六二」の注記などを一部省略している箇所も認められ、また趙子昂書を全く略し、巻四を大幅に整理しているなどの相違もあるが、おおむね自筆本に対して忠実な鈔本と認められる。おそらく自筆本から直接に鈔写されたものであろう。なお、新田文庫にも『東稽』が架蔵されている(E110)。

『深衣図解』 (『龍野目録』一〇〇頁(XII) 9)

和一冊。序は左右双边九行二〇字、図などは左右双边無野。三木家旧蔵九号。

内題「深衣図解」。外題「深衣図解全」。旧蔵者を示す印記などはない。なお『深衣図解』については「懷徳堂データベース全コンテンツ」六五頁の解題を参照。

懷徳堂文庫蔵鈔本(蔵書票「懷77」)よりも履軒自筆本(受入番号「二〇五〇〇二」)に近い体裁を備える。若干の脱字などは認められるもの、おそらく自筆本より鈔写されたものである。いったん鈔した後と同じ手で校勘が施されているなど、比較的丁寧に作られた鈔本である。

『中井竹山 奠陰略稿』 (『龍野目録』一〇〇頁(XI) 10)

和一冊。無界無野一〇行二〇字、序五行八〜一〇字。三木家旧蔵一〇号。

内題「奠陰略稿」。外題「奠陰略稿」。巻末の識語によると、文化三年冬に国枝士謙が鈔写し、文政四年に藤井寛が購入し、天保七年に三木通深が購入した本ということになるが、『龍野と懷徳堂』八四頁の解説はこれに疑問を示す。

『奠陰略稿』については『懷徳堂文庫の研究二〇〇五』九四頁の解題を参照。

本資料は懷徳堂文庫鈔本（懷46）に全く似ず、むしろ竹山自筆本（懷徳堂文庫受入番号「二〇四六五五」）に似る。特に「自序」部分は自筆本の筆跡によく似せてあり、自筆本から鈔写されたものではないかとも思われる。なお本資料には、鈔者自身による誤字の訂正のほか、別手による校正も若干施されている。

『竹山著撰篇目』（『龍野目録』九三頁（い）2）

横帖一冊（三丁）。一九〜二〇行不定字鈔本。袋一点を付す。脇坂家文書。

内題「竹山著撰篇目」「履軒著撰篇目」。鈔者不明。

竹山のみではなく、履軒の編著も含む目録である。『龍野目録』の書名は、冒頭に記された「竹山著撰篇目」のみにより誤認したものか。全文は下記の通り。

- 竹山著撰篇目／逸史 十三卷／非徴／詩律兆／東征稿 一卷／西岡集全／奠陰集 十二卷／同略稿 一卷／四書断／二書断／易断／書断／詩断／礼断／新題百首 一卷／左伝比事跡 未定稿 三卷／東稽 四卷／閑距餘筆 一卷／草茅危言 門外不出 五卷／社會私議 一卷／奠陰自言 未成編／同詩話 口／芳山紀行 一卷／続芳原語 全／履軒著撰篇目／逢原 三十三卷／七経雕題 二十一卷／履軒弊帚／通語 三卷／毫言 門外不出 二卷／履軒古風 三卷／水哉子 五卷／履軒古韵 一卷／履軒古瑾 一卷／諧韵瑚瑾 全／枕上雜題 全／連珠并年表 全／年表内外篇 共二卷／経界図 一卷／数聞 全／詰弁 全／

- 深衣図解 全／述龍篇 全／刀甲弁 全／伝擬小史 全／越俎弄氣 全／華胥国新曆 全／簡諒篇 全／絶句逢原 全／月下録 全／服忌図 一帖／有間星 四卷／恤刑茅議 門外不出 一卷／老婆心／均田茅議 全／華胥国物語 全／同歌合 全二卷／越吟 三卷／古今二徴 一卷／昔の旅 全／古都多飛 全／百首贅 全／古文雕題 全／治水濶論 全／河図累基 全／戦国策雕題／国語雕題／老子雕題／莊子雕題／史記雕題／漢書雕題／後漢書雕題／華胥国記 一卷／左久羅帖 付面鳩 二帖／夢路草枕 一卷

おそらく本資料は、龍野に現存した図書の目録ではなく、竹山・履軒の著作を網羅しようとして作成された資料であろう。

『蔵書籍目録』（『龍野目録』一四三頁（へ）一八）

仮綴一冊。行字数不定鈔本。

内題なし。外題「蔵書籍目録」。

本目録について『龍野と懷徳堂』八八頁は「龍野藩で所蔵されていた書籍が明治期に引き継がれる過程で作成された蔵書目録と見られる」とする。しかし筆者のみるところ、本目録は龍野藩の公的な蔵書目録ではなく、小西家にかかわる私的な目録であったと思われる。また明治以降に刊行された資料も追加されており、小西家蔵書が龍野図書館へ寄贈された大正末年まで補訂され続けたものであろう。

龍野文庫の現状については本目録ではなく、『龍野目録』を参照すべきであるが、参考のため、本目録の全文を下に翻す。ただし所在変更に伴う注記や加筆訂正の類（「鬼二入」「箕二移ス」など）、蔵書点検の際に捺された確認印などは悉く略し、また意味が必ずしも明確ではない記号（「△」

「Y」など)も略した。なお、所在の変更によって同一資料が重出していることが明らかな場合のみ、古い所在の記事を除いた。さらに、該当する可能性のある資料が『龍野目録』に見えるものについて、括弧内のアラビア数字にて『龍野目録』の掲載頁を示した(同名資料の存在などにより確定できないものは「(?)とする」)。

『龍野と懷徳堂』四二頁に本目録第二九葉裏から第三〇葉表にかけての写真が掲載されているので、あわせて参照されたい。

蔵書籍目録

「表紙

角

一 五經大全 内二冊欠

五十二冊(3)

一 詩經蒙引

十冊(2)

亢

一 四書大全 大学或問中庸或問共論一冊欠

二十二冊(3)

一 四書集註

六冊(4)

一 論語義疏

五冊(2)

氏

一 康熙字典

四十冊(12)

房

一 四書正解

三十冊(3)

一 四書刪正 小西家ニ保存

十冊

一 韓文公論語筆解

一冊(2)

心

一 易經集註

十三冊

一 同本義

二冊(2)

「1才

尾

一 同著秘事

一冊(17)

一 詩經集註

八冊(2)

一 四書白文 欠学庸

六冊

一 大学新疏

二冊(3)

一 書經集註

十冊(1)

一 毛詩 鄭箋標註

九冊(3)

一 書伝輯録纂註

五冊(3)

一 書説摘要

四冊(3)

一 尚書

六冊(1)

一 礼記

十冊(2)

箕

一 周礼

八冊(2)

一 儀礼

五冊(2)

一 大戴礼

二冊(2)

一 爾雅

十一冊(3)

一 論説則

一冊(2)

一 三礼義疏

六冊(3)

一 小学 一部小西家ニ保存

二部六冊(6)

一 近思録

四冊(6)

一 孝經 一部保存ノ為小西家ニ遺ス

三部三冊(?)

一 文選

八冊(8)

一 五經 後藤点

十一冊(3)

斗

一 春秋左氏伝

十五冊(1)

「2才

「1ウ

「2ウ

一 同世系図	一 冊(1)		一 日本編年史	二十冊(42)	
一 同提要	一 冊(1)		一 日本外史端本不足	十二冊	
一 同註解弁誤	一 冊(1)		一 十八史畧	七冊(4)	
一 同杜解補正	一 冊(1)		一 国語不見当	六冊	
一 同比事	一 冊(1)		一 日本地理小誌 不見当	三冊	
一 同輯釈写	一 冊(4)	〔3才	一 万国地理小誌 全	六冊	
一 史記	二十五冊(4)		危		
牛二箱			一 大学衍義補纂要	三冊(2)	
一 通鑑内八冊破損	百四十八冊(5)		一 蒙求 中ノ卷欠	三冊(?)	
女			一 名臣言行録	六冊(5)	
一 莊子音義一冊附	十冊(6)		一 同輯釈	四冊(5)	
一 列子不見当	四冊	〔3ウ	一 十七史蒙求	四冊(5)	
一 管子纂註	十二冊(7)		一 劉向說苑	四冊(5)	
一 老子	二冊(7)		一 世説	十冊(13)	
一 荀子	十一冊(7)		一 日記故事談 一冊欠	三冊(11)?	
一 同安井先生説	一冊(7)		一 三通序	四冊(11)	〔5才
一 韓非子	十冊(7)		一 呂氏春秋	五冊(7)?	
一 揚子法言	六冊(7)		一 抱朴子	八冊(7)	
一 鬼谷子	二冊(7)		一 慎思録	六冊(16)	
一 墨子	五冊(7)		一 箋註蒙求 小西家ニ保存	三冊	
一 文中子内一冊欠	四冊(7)		室		
一 淮南子	六冊(6)		一 説文韻譜	十二冊(12)	
一 晏子	五冊(5)	〔4才	一 韻鏡	一冊(34)	
一 老子概弁 不見当	一冊		一 同問答抄	三冊(34)	
虚			一 経伝釈詞	五冊(3)	〔5ウ



一 日本文典 小西家ニ保存	一 冊		一 浪華摘芳請	二 冊 (30)	
一 日本小文典 不見当	一 冊		一 小山堂文鈔	四 冊 (34)	
一 玉あられ 小西家ニ残ス	一 冊		一 作文率	三 冊 (34)	
一 発句古人五百題 小西家ニ残ス	一 冊		一 作詩志毅	二 冊 (31)	
一 同 五千題	一 冊	〔 8ウ	一 作文初問	一 冊 (34)	
一 書法要言 不見当	一 冊		一 虚字啓蒙	一 冊 (31)	
一 俳諧千題	一 冊		一 日本詠物詩	三 冊 (34)	
一 詞葉綠衣 小西家ニ保存	一 冊		一 静軒詩鈔	一 冊 (49)	
一 和歌ふるの山ふみ 全端本	一 冊		一 和漢年契	二 冊 (21)	〔 10ウ
一 俳諧道橋 一冊欠	二 冊		一 和漢年契	二 冊 (21)	
一 安元公 御和歌	一 冊 (47)	〔 9才	一 続東園百絶	一 冊	
一 徒然草 不見当	一 冊	〔 9ウ	一 文用例証	一 冊 (34)	
			一 摺陽文稿	一 冊 (47)	
			一 同 詩稿	一 冊	
参			一 詩山堂話	一 冊	
一 靖献遺言	三 冊 (20)		一 五山堂詩話	二 冊 (34)	
一 文章軌範 大本 一冊欠	四 冊		一 東人詩話	一 冊 (12)	
一 四六彙書	一 冊 (12)		一 湘香室略稿	一 冊 (11)	
一 欧蘇手簡	二 冊 (13)		一 菴玉篇	一 冊 (49)	〔 11才
一 謝選拾遺	一 冊 (10)		一 野馬台詩	一 冊	
一 尺牘奇賞 一冊欠	四 冊 (13)		一 詩聯類珠	二 冊	
一 同 青錢	二 冊 (13)		一 東音譜	一 冊	
一 同 語式	一 冊	〔 10才	一 忠芬義芳詩卷	二 冊 (35)	
一 五雲書	二 冊 (13)		一 遠思樓詩	二 冊 (34)	
一 古文開鍵	二 冊 (9)		一 鷗波余韻 小西家ニ保存	一 冊	
一 古文真宝 一部小西ニ保存	五 冊				

藤のうち葉全	一冊		科註原人論	一冊 (17)
詩稿 仰齋	二冊		履軒古韻	一冊 (2)
泮林集	一冊 (34)		海内詩媒	六冊 (34)
炯戒錄	一冊		王陽明文集	四冊 (8)
助語審象	三冊 (31)	〔11ウ〕	陳龍川文集	四冊 (9)
初学課業次第	一冊		方正学文集	四冊
中夏俗語叢	二冊 (31)		妻	
儒門法語	一冊 (13)		八大家文読本	十六冊 (8)
文章軌範 正小本三統大本三小西家三保存	六冊		同鈔解	四冊 (8)
方正学文粹	四冊 (8)		胃	
振気篇	二部四冊 (34) (35)		円機活法	二十冊 (12)
三体詩解	一冊		昂	
唐賢絶句鈔	一冊 (-)	〔12才〕	瀛奎律髓	十冊 (9)
		〔12ウ〕	唐詩正声	二冊 (9)
奎			唐詩選 二冊	三冊
文選 二冊不見	十冊		唐詩句解	九冊 (9)
小文規則	一冊 (35)		唐詩訓解	八冊 (9)
書柬式	一冊 (35)		唐詩帰	二帙 (9)
七書	十四冊 (7)		古詩源	一帙 (9)
楚辞	六冊 (8)		三體詩	二部六冊 (8)
欧公文集	十冊		同小本 酉年不見	一冊
王道巖文粹	五冊 (9)		古詩韻範	三冊 (35)
魏叔子文鈔	三冊 (9)	〔13才〕	山陽詩抄 外二三冊	四冊 (34)
李忠定公奏議	一冊 (10)		詩律兆	二冊 (13)
魏武註孫子	一冊 (7)		河嶽英靈集	二冊 (9)

一 韓蘇詩鈔	一冊 (10)	
一 杜律五言集解 近年不見	二冊	
一 北海遊草	一冊 (49)	〔15才
畢		
一 陶淵明集	二冊 (9)	
一 同寫本	一冊 (9)	
一 白氏諷喻抄	一冊	
一 青蓮集 同樂府二冊	三冊 (48)	
一 韋蘇集	五冊 (9)	
一 蘇黃題跋	五冊 (10)	〔15ウ
一 王勃集	一冊 (10)	
一 王維集	一冊 (10)	
一 杜律集解	五冊 (8)	
一 同小本	一冊 (8)	
一 陸放翁詩鈔	四冊 (9)	
一 田園雜興	一冊 (13)	
一 張船山草	三冊 (10)	
一 高青邱詩鈔	二冊 (9)	
一 中唐二十家絕句	三冊 (9)	〔16才
一 晚唐十家絕句	一冊 (10)	
一 唐詩寫本	一冊 (10)?	
一 唐詩六言	一冊 (11)	
一 宋詩選	一冊 (10)	
一 明詩正声	三冊 (9)	
一 皇朝千家詩	一冊 (10)	

一 乍浦集 写本一冊付 一冊不足	二冊 (10)	
一 題画詩類	四冊 (10)	
一 聯珠詩格	二冊 (10)	〔16ウ
一 一家言全集 大坂藤江卓蔵へ貸	二帙	
一 写本 笠翁詩文集	七冊 (10)	
一 絶句類選 合本二冊二作	十冊	
一 七才子集	二冊 (10)	
一 玉山選	一冊 (10)	
一 皇朝名家絶句	一冊 (34)	
一 清新詩題統	一冊 (35)	
一 文海探珠	二冊 (10)	〔17才
黃		
一 輟畊録	六冊 (13)	
一 卓氏藻林	八冊 (10)	
一 名物六帖	十六冊 (15)	〔17ウ
井		
一 要鑑抄	三冊 (26)?	
一 要門支流	十三冊 (24)	
一 单騎一統志	一冊 (40)	
一 甲陽軍鑑末書	三冊 (25)	
一 撰甲凶歌	一冊 (25)	
一 軍法水鑑	三冊 (24)	
一 軍礼	一冊	
一 武功伝聞書	三冊 (25)	〔18才
一 武家懷宝	一冊 (25)	

要門講義故事	一冊		一 鎧着之卷	一冊	
同秘書	一冊		一 征韓紀聞	一冊	
甲冑色目考	一冊 (25)		一 武林原始	三冊 (25)	
武者行騰	一冊		一 通俗台湾軍記	一冊	
義家鎧着用	一冊 (25)		一 着服図会	一冊 (44)	
雑兵物語	一冊		一 弓矢名字集	一冊	
当家御式法	一冊 (25)		一 城取雜	一冊	
要鑑綱目	一冊 (25)		一 武家肇要	一冊 (26)	
旗指物図	二部 二冊 (44) (45)	18ウ	一 戰陣之図	一袋五葉	
謙信一代記	一冊		鬼		
兵士軍陣長歌	一冊 (44)		一 大八洲記	十二冊 (21)	
兵法雄鑑	二冊 (24)		一 積日本紀	十五冊 (20)	
单騎要略	一冊 (25)		一 由井根元記	五冊 (20)	
侍用武功	一冊 (44)		一 保建大記	二冊 (21)	
武教全書	三冊 (24)		一 赤城忠臣実記	一冊 (21)	
同小学	一冊 (44)		一 同物語	二冊 (20)	
琉球軍記	一冊 (26)	19才	一 同義人遺事	一冊 (21)	
刀劍問答	一冊		一 仙石一件記 外書付添	一冊 (39) ?	
志津ヶ嶽小須賀話	一冊 (41)		一 大塩一件記	一冊 (21)	
武前覚悟卷	一冊 (25)		一 桃源遺事	五冊 (15)	
武用芸術	一冊		一 銀台遺事	二冊 (24)	
三国通覽 図五枚付	一冊 (22)		一 古戰場得失論	三冊 (24)	
古今戎具長歌	一冊		一 合戦評論	五冊 (25)	
武具短歌	二部 二冊 (47) ?		一 赤城在番日記	一冊	
甲冑図解	一冊		一 同御請取書留	二冊	

一 国鑑	一 冊	〔21才	一 寂如上人五条	五冊 (17)
一 姫府三老記	一 冊 (41)		一 大武鑑 一冊不足	四冊
一 双島記	二 冊 (21)		一 武鑑 横本	二部二冊
一 東条物語 不見当	二 冊		一 弘安礼節	一 冊
一 石井物語	二 冊 (34)		一 祭薦卷	一 冊
一 田宮物語	二 冊 (20)		一 和漢明弁	一 冊
一 赤穂義士真実談	一 冊		一 赤穂四十六士論	一 冊 (21)
一 快拳録 不見当	一 帙	〔21ウ	一 掌中職原肇要	一 冊
柳			一 武家閑談	十冊 (20)
一 日本史抄 系図一冊付	三 帙十五冊 (20)		一 海防備論	一 冊
星			一 遭厄紀事	十二冊 (21)
一 甘雨亭叢書 不見当	二 帙十六冊		張	
一 君則	一 冊 (17)		一 天経或問 欠藤江卓蔵二貸ス	三冊
一 茶経詳説	二 冊 (30)		一 三才正蒙	三冊 (28)
一 古史通	二 冊		一 坤輿御図譚補	四冊 (22)
一 職原抄	二 冊 (24)	〔22才	一 観象図説	三冊 (28)
一 職原抄 小本	一 冊 (25)		一 環海異聞	六冊 (22)
一 同聞書	六冊 (26)		一 北辺紀事	三冊 (22)
一 同支流	二 冊 (24)		一 采覧異言	一 冊 (21)
一 同拔書	一 冊 (25)		一 同増訳 叙一冊付	七冊 (22)
一 大岡名譽政談 小西家二残ス	四冊		一 同地圖	一 冊
一 南畝叢書	一 冊		一 職方外記	三冊 (12)
一 肥後物語	一 冊		一 輿地圖説 抄略	一 冊
一 大君言行録	二 冊 (20)		一 地球分図	一 袋六葉
一 書画談 不見当	二 冊		一 同略図	一 葉
				〔23ウ
				〔23才
				〔22ウ

一 蝦夷奇觀	一冊	(22)				
一 魯西亞人渡來記	一冊	(22)				
一 樸那把爾の後記	一冊					
一 羅媽人歎狀	一冊	(21)		〔24才		
一 契利斯督記	一冊	(22)				
一 切支丹伝來記	一冊	(22)				
一 北槎聞略抄	二冊	(22)				
一 米船図	一枚					
一 合衆國書簡和解	一部	二冊	(25)			
一 鴉片始末	一冊	(25)				
一 中山聘使略	二冊	(25)				
一 西洋紀聞	一冊	(22)				
一 分界抄録	一冊			〔24ウ		
一 蝦夷紀聞	五冊	(22)				
一 武徳安眠記	十一冊	(20)				
一 世界図尽 不見当	一冊					
翼						
一 算法一覽記	七冊					
一 形数算有	一冊					
一 同 再算有 算有再乘有術共一冊付	一冊					
一 気数	一冊					
一 妙見式	一冊			〔25才		
一 適等集	一冊					
一 同 統篇	一冊					
一 算学啓蒙	三冊					
一 句股弦適等図	一冊					
一 要務考	一冊					
一 規矩元法記	一冊	(29)				
一 度量考	二冊	(29)				
一 改算記大成	一冊					
一 塵劫記	一冊					
一 天文図解	五冊	(28)		〔25ウ		
一 算法闕疑抄	一冊	(15)				
一 星図	一葉					
軫 此分全部小西家ニ保存				〔26才		
一 瘞鶴銘	一帖					
一 東坡画記	一帖					
一 同 松醪賦	一帖					
一 趙子昂赤壁賦	一帖					
一 同 大学	一帖					
一 枝山予聞	一帖					
一 同 秋興八首	一帖					
一 同 文賦	一帖			〔26ウ		
一 花蓋夫人宮詞 本間ニ与フ	一帖					
一 文徵明天閑	一帖					
一 同 朝下	一帖					
一 細 細泉	一帖					
一 同 支研	一帖					
一 同 還家	二帖					
一 宋元章清蹕	一帖					



言

竹山易說	一冊		
同詩解	二部五冊 (39)		
同書說 下ノミ	二冊 (39)		┌ 30 才
弊帚 写本一冊付	四冊 (47)		
閑距余筆	一冊 (39)		
東征稿	一冊 (49)		
背誦	一冊 (15)		
答今村氏簡	一冊		
自鳴鐘	一冊 (48)		┌ 30 ウ
履軒經義答書	一冊 (39)		
華胥國物語	一冊		
服忌凶	一冊		
送千秋序	一冊		
蒙養篇	三部三冊 (39)		
車制	二部二冊 (29)		
中庸定本	一冊 (46)		
典謨接	一冊		┌ 31 才
珊瑚	一冊 (48)		
古韻	一冊 (48)		
束稽	一冊		
伝疑小史	一冊		
簡諒篇	一冊		
浪花拾遺	一冊		
四茅議	一冊		

草茅危言	五冊 (44)		
峡中紀行	一冊 (34)		┌ 31 ウ
鸚鵡語	一冊		
國本論	一冊		
丙辰紀行	一冊 (34)		
古学約言	一冊		
言志録	一冊 (17)		
水府公献策	一冊		
同議論	一冊		
素餐録	一冊 (15)		
孟子欄外書	二冊		┌ 32 才
本佐録	一冊		
吉斎謾録	二冊		
積記	一冊 (13)		
甕記	一冊 (10)		
墨場必携	二冊		
喻叢	一冊		
勤事物語	一冊		
農喻	一冊 (29)		
歌詠百人選抄 小西家ニ保存	一冊		┌ 32 ウ
儒林集考	一冊 (31)		
古今名諺	一冊 (16)		
省文参考	一冊 (31)		
南留別志	一冊 (31)		
名判集成	一冊 (15)		

統文淵遺珠	一冊 (10)	
文林摘叢	一冊 (10)	
子叢摘芳	二冊 (9)	
勸孝篇	一冊 (3)	〔33才
刊謬正俗	一冊 (15)	
宗意惑乱	一冊	
平安諸家人物誌	一冊	
飲膳摘要	一冊 (29)	
青標紙	一冊	
殿居囊	一冊 (16)?	
服忌令	一冊	
三王外記 近年不見	一冊	
所見集	一冊	〔33ウ
行館監録	二冊 (44)	
同附記	二冊 (44)	
同余贅	一袋	
社會私議	二部二冊	
同書類	五冊	
校務私記	二冊 (44)	
餐事日録	三冊 (44)	
敬樂館創立始末	一冊	
敬樂館積菜書留	二冊 (44)	
曆林要略	一冊	
徂徠文戒	一冊	〔34才
白河夜話	一冊	

動

平安人物誌	一冊 (21)	
視志小言	一冊	
躰拔要集	一冊	
不問語	一冊 (48)	
昏礼袖鏡 一冊	二部二冊 (25) (44)	〔34ウ
伝信録	一冊 (26)	
富士山紀行 近年不見	一冊	
心学手引草	一冊 (17)	
今川状	一冊 (34)	
孝子伝	一冊	
白鹿洞揭示	一冊	
万吉伝	一冊	
孝子善行書附 近年欠	一冊	〔35才
金石篇	一冊	
植木翁言行録	一冊	
答或問	一冊	
播磨古跡考	一冊 (41)	
御条目騰	一冊 (44)	
郡名	一冊	
黄白問答	一冊 (15)	
同後篇	一冊	
三子孝状	一冊 (17)	
告志篇	三部三冊 (17) (17) (17)?	
富女行	一冊	〔35ウ

水戸条令 二部二冊 (25)  
 訓蒙字類 一冊  
 久世条令 二部二冊 (24)  
 子華行狀 一冊 (39)  
 和睦艸 小西家ニ保存  
 天人一説 一冊 (39)  
 自己自眼 一冊  
 井上氏行狀 一冊  
 幽蘭堂入門規短 一冊  
 息游事狀 一冊  
 江戸囃 一葉 (22)  
 同小囃 一葉  
 不問語 重出 一冊  
 五体千字文 一冊 (30)  
 諸家建議 一冊 (45)  
 商賈往来 一冊 (29)  
 晋書抄 一冊 (6)  
 史記抄 一冊  
 十八ヶ条解 一冊  
 常山紀談拔華 一冊 (35)  
 前訓 一冊 (17)  
 悉曇字説 一冊 (10)  
 革嶋物語 一冊 (39)  
 京廻水 囃二枚付 二冊 (21)  
 全人論 小西家ニ保存 一冊

琉球解語 一冊 (21)  
 南郭灯下書 一冊 (47)  
 四季法礼 一冊 (26)  
 藤樹書簡年譜 一冊 (34)  
 築山庭造伝 一冊 (39)  
 洗冤録 一枚  
 大蝦夷囃 一冊 (28)  
 群芳譜 一冊  
 同花譜 近年不見 一冊  
 小語 一冊  
 御碑銘 一冊  
 桑諭三言 一冊 (13)  
 父師善誘法 一冊  
 弘道館記 一冊  
 菅像弁 一冊  
 科場録 一冊 (17)  
 上丁祭儀 一冊 (39)  
 稼穡説 一冊  
 集語 一冊  
 阿安女物語 一冊  
 讚行雜記 二部二冊  
 和漢名数 一冊 (15)  
 郁離子 近年不見 一冊 (40)  
 藩誌撮要 一冊 (40)  
 龍野誌 一冊

〔36ウ〕  
 〔36才〕  
 〔37ウ〕  
 〔37才〕  
 〔38才〕

御系譜	一冊		鏡歌余響	二冊 (49)
脇坂家譜 小西家	一冊 (40)		古桐余響集	二冊 (34)
蟠龍記	一冊		懷德堂五種	一冊
讚州道之記	一冊		懷德堂展覽會目錄	一冊
白石真像	一枚	〔38ウ	蘭洲先生朝顔ノ詞	一葉
太宰独語抄	一冊		詩筌	一冊
千祿字書	一冊 (12)		才人雅遊一覽	三冊
烈祖垂統篇 二部 一冊写本	二冊 (41)?		樂府古題要解	一冊 (13)
草木育穂	二冊 (29)		播磨鏡 小西家ニ保存	一冊
消息往来	一冊		赤松盛衰記	二冊
千字文飾師 不見	一冊		播磨国古城記	一冊 (41)
風流巷之噂	一冊 (15)		竹田城	一冊 (40)
賜第之図	一枚		貂ノ革由来	一冊 (40)
円明流兵法	一冊	〔39才	淡路のしら玉 小西家ニ保存	一冊
藩翰譜拔萃	一冊		安親公安董公御子様方全	一冊
御系図逸話	一冊 (41)		古今見聞集抄	一冊 (21)
信州飯田分限帳	一冊 (40)		皇国州名歌	一冊
水戸史館珍書考	一冊 (15)		貞丈雜記抄	一冊
密書	一冊		漬物方 小西家ニ保存	一冊
安元公乃歌	一冊	〔39ウ	某与熊谷氏書翰	一冊
寧			統一年有丰	一冊
朱子家訓	三冊 (17)		折腰録	一冊 (48)
息軒遺稿	四冊 (34)		景行録	一冊
読書余適 睡余漫稿	一冊 (34)		秋興雜咏	一冊 (11)
達軒詠古詩鈔	二冊		観月集	一冊 (47)

一 庚子消夏記碑帖攷	一冊	
一 詩経備忘録	二冊 (39)	
一 雪蓴集	一冊	「41才
一 後藤林学士講話筆記	一冊	
一 柴原知事演説筆記	一冊	
一 講和条約ノ価値	一冊	
一 自家用神拝祝詞集	一冊	
一 鷗夢新誌	一冊	
一 活花四芳香	一冊	
一 生花独□□□	四冊	
一 中等漢文読本	一冊	
一 難波軍記	十冊 (24)	
一 別辞老抄	一冊	
一 古言梯	一冊 (31)	「41ウ
仁		
一 綱鑑	二十冊	
一 左伝輯釈息軒著 自一至五 五冊 欠卷六以下 十六冊 (1)		「42才

本目録には、後次的な本文の追加(第二十九葉以下)や整理が加えられたものと見え、改装時に生じたと思われる乱丁も数カ所認められる。たとえば第二葉の後は本来第五葉が接続していたと思われる。またたとえば第七葉末尾と第十八葉冒頭なども内容上接続しないように見える。さらに、第四十二葉『別辞老抄』に「壁ヨリ移ス」とあるが「壁」や他の箇所に『別辞老抄』は見えず、落丁がある可能性も指摘され得よう。

本目録に掲載されている資料のうち大部分は、大正十五年に「小西文庫」

として龍野図書館へ寄贈され、現在は龍野文庫に架蔵されている。本目録に見え龍野文庫に現存しない資料については「小西家二保存」などの理由でそもそも龍野図書館へ寄贈されなかったものと思われるが、いったん同館へ受入された後に失われた資料も認められる(たとえば31ウ『四茅議』や32ウ『諭叢』は、昭和十年代までに同館から流出した資料である)。

いずれにせよ本目録は、小西家旧蔵書の状況やその後の所在情報なども伝える貴重な資料であつて、龍野文庫の研究に際しては、『龍野目録』とともに、まず参照すべき文献と言えよう。

『春秋左伝校本』 (『龍野目録』一頁(1)1)

和一五冊。刊年未詳の須原屋刊本。

内題「春秋左伝校本」。外題「再刻春秋左伝校本」。

蔵書票には「委託図書／元龍野中学校図書／揖東郡第二号四／第十五函 第二架第一画／龍野高等学校修養会」とあり、また印記「兵庫県揖保郡教育会」「揖東揖西穴栗佐用赤穂五郡共有物之印」などを有するので、出所はおそらく「揖保郡教育会」が正しいであろう。『龍野目録』が「小西文庫」とするのは下記の中江久四郎等刊本と混同したもののか。

書込の類は認められない。

『春秋左氏伝』 (『龍野目録』一頁(1)2)

和一五冊。『龍野目録』は刊記に従い「安永六年」刊本とするが、天明以降の修刊本。

内題「春秋左伝」。外題「春秋左氏伝 再刻」。

『龍野目録』は出所を「郡教育会」とするが、揖保郡教育会の印記などは認められず、蔵書票や受入印の類も認められない。

わずかな書込と、近代のものと思われる「立花」「三河」の印記を有す。

『春秋』 (『龍野目録』一頁(1)3)

和一冊。刊年未詳。

内題「春秋」。外題「校正音注春秋再刻改点完」。

蔵書票によると、大正四年に川道雅彦氏より龍野尋常高等小学校へ寄贈された一冊のうち一冊。

『春秋左伝評林』 (『龍野目録』一頁(1)4)

和一五冊。寛政五年松村九兵衛等刊本。

内題「春秋評林」「音註全文春秋括例始末左伝句読直解」。外題「春秋左氏伝評林林註」。

蔵書票によると、大正四年に渡辺芳之輔氏より龍野尋常高等小学校へ寄贈されたもの。「多田氏」などの旧蔵印とわずかな書込を有す。

『春秋全』 (『龍野目録』一頁(1)5)

和一冊。揖保郡教育会旧蔵。

内題「春秋」。外題「改正音訓春秋再刻後藤点完」。

上掲の川道雅彦氏寄贈本と並び、もつともありふれた単経和刻本である。

『春秋左伝』 (『龍野目録』一頁(1)7)

和一五冊。「宝曆五乙亥正月之吉」刊記を有す中江久四郎等刊本。小西文庫。

内題「春秋左伝」。外題「春秋左氏伝」。

本資料の欄外などには諸家の説が詳細に書込まれており、うち大部分は「履軒曰」「雕題曰」「雕云」などとして『左伝雕題略』説を転記したものである。ただし「仙坡曰」として『蕉園首書左伝』(自筆本は懷徳堂文庫蔵)に見える説も書込まれていることが、蕉園説の懷徳堂外への流布という観点から注目される。

『春秋提要』 (『龍野目録』一頁(1)8)

和一冊。無界無野一〇行二〇字鈔本。小西文庫。

内題「春秋提要」。外題「春秋提要全」。末尾に「寛政八年丙辰季夏上旬業終小西教書」の識語がある。

『左伝比事』 (『龍野目録』一頁(1)9)

和一冊。小西文庫。

内題・外題とも「左伝比事」。無刊記の小刊本であり、書込なども認められない。

『左伝杜解補正』 (『龍野目録』一頁(1)10)

和一冊。四周単辺一〇行二〇字鈔本。小西文庫。

内題「左伝杜解補正」。外題「左伝杜解補正単」。末尾に「工部都水司郎中臨川李秉綬刊」とあり、写刊本と思われる。

『春秋注解辨談』 (『龍野目録』一頁(1)11)

仮綴一冊。無界無野一〇行二〇字鈔本。小西文庫。内題「春秋左伝注解辨誤」。外題「左伝注解辨誤」。

末尾に「辨誤補遺」を付す。

『春秋世系図』 (『龍野目録』一頁(1) 12)

和一冊。無界無罫一〇行不定字鈔本。小西文庫。  
内題なし。外題「左伝世系図」。

『春秋輯釈』 (『龍野目録』一頁(1) 13)

和一六冊。『龍野目録』は鈔本とするが、和泉屋吉兵衛等刊本。小西文庫。  
内題・外題とも「左伝輯釈」。

わずかな校記の書込が認められる。なお『龍野目録』は「卷六(二)一」とするが、実際には卷七から卷二五までの端本。

『春秋左氏伝』 (『龍野目録』一頁(1) 14)

和一五冊。鈴木常松(積善館)刊本。

内題・外題とも「春秋左氏伝校本」。『龍野目録』は「三河喜久治」からの寄贈とする。

『龍野目録』は「卷不揃」「安永六年」とするが、実際には全三十巻の揃本で、明治十八年刊本を再版した明治二十五年刊本。

『春秋佐子伝』 (『龍野目録』二頁(1) 108)

和一五冊。「安永六年丁酉三月新刻」の刊記を有する越後屋清太郎・中江久四郎等刊本。

内題「春秋左伝」。外題「春秋左氏伝」。

郡教育会などの印記の他に「明倫堂藏書」印記を有す。また後半の数冊に「盛田」の打書が認められる。表紙・本紙とも甚ツカレ。

全体にわたり詳細な書込が行われているが、孔疏の転記が多い。

『佐伝輯釈』 (『龍野目録』二頁(1) 111)

和一冊。無界無罫一〇行二〇字鈔本。小西文庫。  
内題・外題とも「左伝輯釈」。

卷八より卷十までの端本(昭公六年(哀公二十七年))。欄外などにかなり詳細な校記が施されている。

『春秋左傳 白文』 (『龍野目録』一九三頁(70) 10)

和一冊(合綴本)。四周単辺一三行三二字排印本。芦野まつの資料。

内題「春秋左伝」。外題「春秋左伝 白文」。刊記頁を欠くが、民国期におそらく商務印書館が出版した新渡本。

万年筆によるかと思われる書込が僖公の半ばまで施されている。

(本センター職員)